

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。


ワークショップ開始

(録音の同意をいただいて、録音開始)

木村：それでは、ワークショップを始める前に、何はともあれ、事前のアンケートを記入してください。よろしくお願いいたします。

(各自アンケート記入)

木村：非常に難しいアンケートにお答えいただき、ありがとうございます。アンケートの中には、エネルギーのことがいろいろ書いてあったと思います。そこからも分かるように、エネルギーの分野は非常に広い範囲にまたがっています。このアンケートも、どうしても発電のほうばかりに偏ってしまうので、そうならないよういろいろ悩みながら作らせていただきました。



「エネルギーの将来について、
確たる知識に基づき、
価値観を越えて合意をつくる」
プロジェクト

〔オープニング〕
プロジェクトの目指すもの

パブリック・アウトリーチ
木村 浩

本事業は、経済産業省資源エネルギー庁の支援を受けて実施しています。（事務局：（一財）日本立地センター）

1

木村：では、プログラムを進めていきたいと思います。改めまして、私が責任者の木村と申します。今回のプロジェクトにご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

今回のプロジェクトは、「エネルギーの将来について、確たる知識に基づき、価値観を越えて合意をつくる」プロジェクトという名前ですが、その目指すものを皆さんにご紹介していきたいと思います。



プロジェクトの背景

▶ **福島原発事故やパリ協定を受けて、エネルギーの将来見通しは複雑化し、多くの問題を孕む。この解決には、国民的議論が望まれている。**

- 国民的議論の一環として、エネルギーに関するさまざまな対話の取り組みがなされている。しかし、最終的にどのように「決めていくのか=合意をつくっていくのか」ということに切れ込んだ対話はなかなか見られない。
- 政府も、どうやって国民的議論を政策に取り入れればよいのか、試行錯誤中。
- 従来の合意形成学においても、全国民的な合意形成には踏み込めていない。

2

木村：このスライドには、プロジェクトをなぜ始めたのかという背景が書かれています。

2011年3月に東日本大震災が起これ、それによって福島原発事故が引き起こりました。昨年末には、パリ協定、京都議定書の後のようなものですが、ができ、地球温暖化に関する動きも世界的に加速してきました。エネルギー問題自体が非常に複雑で、多くの問題をはらんでいるということが言えると思います。

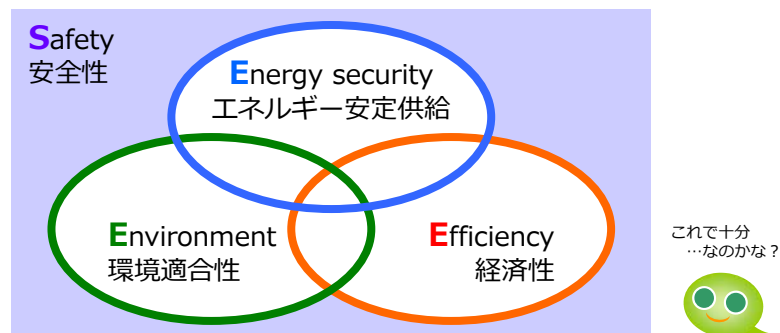
これを解決するために、政府が何か一方的に決めるのではなくて、これからの社会では、国民的議論、つまり国民1人1人がしっかり決定に参加して、責任を持って決めていくことが望まれています。

この国民的議論をどう進めたらいいのかということに関しては、学問的にも政治的にもまったく明確なものがなくて、交渉学という分野でも、地域に特化した問題であればどうにかなるものの、エネルギー問題のように国民全体が議論しなければいけないものに対しては、誰も解を持っていないのが現状です。



エネルギーの将来を考える

- ▶エネルギーの将来を考えるには、「3E+S」が重要とはよく言われる。大前提のSに加え、3Eのトリレンマを考えなければならない。



3

木村：今回は、「エネルギーの将来を考える」をメインテーマに据えています。政府や有識者の間では、エネルギーの将来を考えるときには、「3E+S」が重要だと言われています。3Eの1つ目は〈エネルギー安定供給〉です。英語では Energy security なので、必ずしも安定供給ではなくて、本当は安全保障ですが。2つ目は〈経済性〉、Efficiency です。効率性もこの中に含まれてきます。3つ目が〈環境適合性〉、Environment です。今は、地球温暖化に対する適合性が焦点になっています。それから、福島事故を受けて、〈安全性〉、Safety が大前提であるということを含めて、「3E+S」という議論をしなければならないと言われています。

ここで、3Eが重ねて書かれているように、これら3つのEはそれぞれ独立して考えることができません。こちらを立てればこちらが立たずということです。2つだったらジレンマですけれども、3つなのでトリレンマです。3Eのトリレンマを考えなければいけないと言われています。



プロジェクトが目指すもの

▶ **エネルギーについてよく知り、自分の意見を持った上で、周りの意見を尊重しながら、エネルギーの将来についての「合意」を目指して話し合う。**

- 最終的には、**2050年の日本のエネルギー構造**について考え、話し合う。それを目指してワークショップを進める。
- もし合意が取れなかったとしても、「合意」を目指すためには、さらにどのような情報が必要になるのかを話し合う。プロジェクトでは合意を目指す、全6回のワークショップで必ず取らなければならないということはない。
- 合意を目指した草分け的取り組み。

4

木村：エネルギーについて国民的議論を進めていこうということなのですが、現状ではどうやって進めたらいいかも分からないということで、その端緒として、本プロジェクトでは、まず、エネルギーについてよく知らないことには何も話せないだろうと。その上で自分の意見を持って、合意を目指す。ただし、合意を目指す上では、周りの意見を尊重しながら、というプロセスが必要なのではないか、ということです。今お集まりの7名の方で、合意を目指すためにどういうことを考えたらいいのか、少し実験をしようということで、このプロジェクトを始めています。

最終的には、単に「エネルギーの将来」と漠然と言ってもよく分からないので、皆さんの油が乗り切るくらいの2050年、今から約35年後の日本のエネルギーがどうなっているだろうかということ、皆さんの中で考えて、合意を目指して話し合っていたらこうと思います。

ただ、必ず合意を取らなければいけないということではありません。合意が達成できなかったとしても、達成できない理由は何なのか、あるいは、こういうことをもう少し分かって話し合わないと合意が取れないということが見つけられれば、それも大きな一歩だと思っています。

これが本プロジェクトの目的になります。



運営者

- NPO法人パブリック・アウトリーチ
 - プロジェクト運営責任者、ファシリテーター
 - 木村 浩・竹中一真・神崎典子・円満字千代佳
- 講師
 - 安定供給 : 藤井康正氏 (東京大学)
 - 経済性 : 松尾雄司氏 (エネルギー経済研究所)
 - 環境適合性 : 柳下正治氏 (上智大学)
 - 安全性 : 諸葛宗男氏 (パブリック・アウトリーチ、元東京大学)
- 株式会社N V研究所
 - ワークショップ記録作成
- 資源エネルギー庁
 - 本プロジェクトの資金元、(一財)日本立地センターが事務局
 - 関係者の視察がありうる。

…ボクもいるよ!



5

木村: それでは、このプロジェクトにどういう人たちが関わっているのかをご紹介します。

このプロジェクトは、NPO 法人パブリック・アウトリーチが企画して、応募して、資金の援助をいただいています。ということで、我々がプロジェクトの運営責任者と、話し合いのファシリテーターを務めます。ファシリテーターというのは、話し合いをまとめて、進めていく人ということですが、私と竹中でやらせていただきます。

竹中: よろしくお願ひします。

木村: また、パブリック・アウトリーチとして、神崎と、今日はいないですが、円満字という者が、事務的な様々なフォローアップをしています。


神崎: よろしくお願ひします。

木村: 今回のプロジェクトでは、知識をしっかりと知っていきましょうということで、6回の中の4回は講師の方にお越しいただいて、講義をしていただこうと思っています。〈エネルギー安定供給〉に関しては、東大の藤井康正先生をお招きします。〈経済性〉に関しては、エネルギー経済研究所の松尾雄司先生をお呼びしています。発電コスト検証ワーキングの委員もされている方です。〈環境適合性〉では、上智大学の柳下先生をお招きして、お話ししてもらいます。〈安全性〉、特に原子力の安全性については、元東大、今はうちのNPOの研究員である諸葛先生にお話しいただこうと思います。諸葛先生は、福島事故の後、TBS

でみのもんと一緒にずっと話をしていた人です。

また、このワークショップは記録をとって、ホームページに公開していきます。記録作成のために、株式会社 NV 研究所の方に来ていただいています。

また、先ほど応募して資金の支援をいただいたという話をしましたが、その資金元は資源エネルギー庁で、その事務局は日本立地センターです。資源エネルギー庁の官僚の方や、このプロジェクトを評価する委員の先生方が視察にいらっしゃる可能性もありますので、ご了解いただければと思います。




参加者

▶ **学生 7人**

- 男性3人、女性4人
- 文系2人、理系5人

	重視する	重視しない
エネルギー安定供給	4人	1人
経済性	0人	3人
環境適合性	1人	2人
安全性	2人	1人



ご協力ありがとうございます

6

木村：さて、今度は皆さんのほうです。一緒に作っていくということで、参加していただいている7名がこちらになります。男性3人、女性4人、また、文系2人、理系5人ということです。ここで、皆さんには、お名前と、ご所属と、意気込みみたいなものを一言ずつ紹介していただきたいと思います。こちらからよろしいですか。

A：エネルギーについては、興味はあるのですが、自分の中でまだ矛盾があるので、この会を通じていろいろな話を聞けると思うので、理解を深めて、自分の一貫した考えを持てるようになりたいと思います。よろしくお願ひします。

木村：よろしくお願ひします。じゃあ、拍手くらいしましょうか。(拍手)
はい、ではどうぞ。

B: エネルギーについて、ニュースなどでいろいろ見るのですけれども、専門的な知識を有している方からきちんと体系だったことを教わりながらこういうことを議論するということに興味があったので応募しました。これからよろしく願いいたします。(拍手)

C: 私が理系に進んだのが原子力の事故を受けてだったので、いろいろそういう話を聞けたらいいなと思っています。よろしく願いいたします。(拍手)

D: エネルギー問題というのは、興味はあったのですが、専門的な知識が全然なかったので、この機会にいろいろなことを学べたらいいなと思って参加させていただきました。よろしく願いいたします。(拍手)

E: 普段は社会科学を広く勉強しています。こちらのプロジェクトに興味を持ったきっかけは、昨年トランスサイエンス論という授業があり、原子力発電の再稼働問題や食品添加物の話について、研究者、行政、一般住民などいろいろな立場に分かれて議論するという授業に参加していたのですけれども、そのときは普段と違う立場からいろいろ考えられてよかったなと思ったのですけれども、振り返ってみると、その場だけの結論をパッと作って終わったような感じがして、自分の中ですごく不完全燃焼だったので、そういう経験から、今回のお話をいただいたときに参加してみたいと思って応募しました。よろしく願いいたします。(拍手)

F: 今回参加したいと思ったきっかけは、私は出身が茨城県で、今も住んでいるのですけれども、東海村が茨城にあって、結構近所のことなのにあまりよく知らないなということを、事故があったときに改めて痛感したので、この機会にそういった身近なことに関してもちろん興味を持って話し合ったりできるようになりたいと思って、参加させていただきました。よろしく願いいたします。(拍手)

G: エネルギー問題については、ニュースを見て漠然とイライラしたりすることが多かったので、自分でちゃんと知識をつけて学んでいったほうがいいのではないかと考えて、参加させていただきました。お願いいたします。(拍手)

木村: 参加者の中に、エネルギー関係の人はいないのですね。エネルギーや原子力関係の人たちには声をかけないで集めようということで、エネルギーに関して専門でやっているわけではないという方を集めて、話し合っていたらこうと、こういうふうにとセットさせていただいています。6回という長丁場になりますけれども、よろしく願いいたします。



実施予定

- 第1回：2016年8月16日（火）13:00～15:00
 - オープニング・ワークショップ「エネルギーの将来について考えるには」
- 第2回：2016年9月19日（月）13:00～15:00
 - 「電源別発電コスト評価の概要と主要な論点」（松尾雄司氏）
- 第3回：2016年9月22日（木）13:00～15:00
 - 「原子力の安全性（Safety）について（仮）」（諸葛宗男氏）
- 第4回：2016年10月中
 - 「環境適合性（Environment）について（仮）」（柳下正治氏）
- 第5回：2016年11月中
 - 「エネルギー安定供給（Energy Security）について（仮）」（藤井康正氏）
- 第6回：2016年12月中
 - ワークショップ「エネルギーの2050年像を描く（仮）」

7

木村：先ほどから 6 回と言っていますが、現時点での実施予定を確認したいと思います。

第1回、本日は、オープニングということで、「エネルギーの将来について考えるには」というテーマで話をしたいと思います。

第2回は、9月19日に開催します。〈経済性〉、特にコスト評価の話をしていただくということで、松尾先生をお呼びしています。

第3回は、9月23日に開催します。「原子力の安全性について」ということで、諸葛先生に来ていただきます。

ここまでは日程が決まっていますけれども、この後は、これから決めていくこととなります。〈環境適合性〉や〈エネルギーセキュリティ〉について、それぞれ第4回、第5回と講義を重ねて、最後に、もう1回ワークショップで2050年像を描くというスケジュールを考えています。年内で終わらせようと計画しています。



記録と公開

- 〔公開〕プロジェクト運営の公正のために、話し合いは録音して書き起こし、読みやすいような最低限の加工や、個人情報や不適切発言等を消去した上で、すべてホームページに公開する。
 - <http://www.ponpo.jp/2016WS/>
- 〔非公開〕フォーラムの様子を録画する。
 - 学術的分析にのみ使用し、その他の利用は一切しない。外に流出することは一切しない。
- その他、写真等の記録を取る。
 - これらの公開については、参加者の許可をもらってから行う。
- 〔お願い〕SNS等で皆さんの活動を拡散してください（笑）

ふよたまからも
お願いします



8

木村：記録と公開についての考え方ですけれども、少し機微な分野の情報ということになりますので、その公正のために、話し合いを録音して、書き起こして、読みやすいような最低限の加工や、個人情報や不適切発言を消去した上で、全てホームページに公開するという方針で行っていきたいと思います。

一方で、今、録画もさせていただいています。こちらは公開いたしません。学問的に、どんな表情で話していたかな、というようなことが必要になったときに見直すという形で利用させていただきます。

その他、写真等の記録を取らせていただいて、ホームページ等で情報公開をしていきたいと思っています。

あと、これは資金元からお願いされたのですけれども、SNS等で皆さんの活動を拡散してください。今日こんなところに行ったとか、ブログとか、思ったことをつぶやくとか、そういうことは積極的にやっていただければと思います。

おわりに

〔目的再掲〕 エネルギーについてよく知り、自分の意見を持った上で、周りの意見を尊重しながら、エネルギーの将来についての「合意」を目指して話し合う。

- 皆様と一緒にあって、お互いを理解し、尊重しながら、合意をつくっていくための新しい方法を生み出していきたいと考えています。
- 私たちは、本プロジェクトを通じて、市民が共に話し合い、ものごとを決めていくような仕組みをどうしたら創れるのかを見つけ、社会に貢献していきたいと考えています。

皆様のご協力に感謝申し上げます

9

木村：最後に、目的を再掲させていただいています。「エネルギーについてよく知り、自分の意見を持った上で、周りの意見を尊重しながら、エネルギーの将来についての『合意』を目指して話し合う」。皆さんと一緒にあって、お互いを理解し、尊重しながら、合意を作っていくための新しい方法を見出していきたいと考えていますし、このプロジェクトを通じて、市民が共に話し合っ、物事を決めていくような仕掛けをどうやったら作れるのか、ということを見つけて、社会に貢献していきたいと考えています。

皆様のご協力に感謝しています。ありがとうございます。



プロジェクト参加に伴う諸条件等

- 効果測定・学術的分析の視点から、以下を行う。
 - アンケートの実施・分析（プロジェクト前後、各ワークショップ後）
 - 分析者は木村・竹中（パブリック・アウトリーチ）
 - いただいたデータは、個人情報の管理を徹底します。分析においては、個人が特定されないように実施します。
- ワークショップの参加に伴う謝金
 - 24,000円（交通費込み）（各ワークショップで4,000円をお支払いします。）
 - 原則として、全6回参加していただきます。
- 本プロジェクト開催に関する費用
 - 経済産業資源エネルギー庁の支援を受けて実施しています。
（事務局：（一財）日本立地センター）
- 活動成果の公表
 - 本プロジェクトによって得られた成果は、様々な学術的な場等において公表します。また、マスメディア等の取材にも積極的に応じます。

10

木村：最後のスライドになりますが、諸条件ということで、お手元の「同意書」を見ていただいてよろしいでしょうか。同意書とセットで同意撤回書というものもあると思います。

これから、ここに書いてある条件を読んでもいきますけれども、これに同意されるということで署名をいただいて、同意書を回収いたします。同意撤回書は、持っておいていただいて、もうこのプロジェクトにはついていけないというときに署名して出すと、やめることができるというものです。このようなプロジェクトでは、倫理的な観点から、こういうものが必要になってきますので、手続き上やらせていただきたいと思います。

それでは、同意書を読み上げます。

プロジェクト参加に関する諸条件。

プロジェクトへの参加について。プロジェクトの参加者には、原則 6 回のワークショップすべてに参加していただくことになります。

プロジェクトへの参加の任意性について。プロジェクトへの参加は任意です。プロジェクトへの参加をお断りになることにより不利益を被ることはありません。また、一度、参加に同意した場合においても、参加への同意をいつでも撤回することができます。撤回に伴い不利益を被ることはありません。

プロジェクトの参加に伴う危害の可能性と、それに対する配慮について。

1. 開始時にプロジェクトの目的および概要、個人情報の取扱（連結不可能匿名化して扱う）について説明いたします。

2. ここで同意の確認が得られなかった場合は、プロジェクトへの参加を取りやめるこ

とができます。

3. 各回の冒頭で、録音、録画、写真撮影についての可否をお聞きし、同意が得られた場合に、録音、録画、写真撮影を開始します。同意が得られなかった場合、その回の録音、録画、写真撮影を取りやめます。

4. プロジェクトにおいては、参加者が答えられない、もしくは、参加者が不快と感じた質問項目については、当該項目の回答を強要いたしません。

5. プロジェクト途中に参加を取りやめる旨が示された場合は、速やかにそれに対応いたします。

プロジェクト参加申込書の情報の取扱について。お知らせいただいた個人情報は、プロジェクトに係るお知らせ、連絡、問い合わせなどの目的で、本活動の関連にのみ利用いたします。それ以外の目的で利用したり、法令に定める場合を除き、事前に皆さまの同意を得ることなく、第三者に提供することは一切ありません。

プロジェクト成果の公表について。本プロジェクトによって得られた成果は、学術的な場等において公表します。また、成果の一部は、マスメディア等に公開されることもあります。

以上が同意書の内容になります。

また、プラスの諸条件ですけれども、ワークショップ参加に伴う謝金は、6回全部出ただくと24,000円、各ワークショップで4,000円ずつお支払いする、ということになります。

ここまでが目的、および、条件等の説明になりますけれども、何か質問はありますか？よろしいでしょうか。

それでは、同意いただける方には、本日の日付とお名前をいただいて、この場で回収したいと思います。撤回書は皆さんで持っていていただければと思います。

(同意書の回収)

木村：それでは、皆さんから無事に同意が得られたということで、早速今日の中身に入っていきたいと思います。